# 読売歌壇

## 小池　光　選

新調の帽子を風に飛ばされし昔ありたり汽車の窓から　仙台市　千葉　幸平

【評】昔むかしの汽車は窓が開けられて、夏ともなれば涼しい風が入ってきたものだ。帽子を飛ばされるようなこともあった。新調の帽子だったが、いまとなればただ懐かしい。

自分から話かけない十五の子「ばあちゃんおかわり」今日は良い日だ　仙台市　植沢　悦子

【評】むずかしい年頃になった孫。ろくろく口もきいてくれない。きょうは珍しく、こうひとこと言ってくれて、実にうれしかった。大丈夫、数年我慢すれば元にもどります。

敬老会三年ぶりの案内状「伊豆の踊子」上映とあり　岩出市　明治むつみ

【評】敬老会で映画を上映するというアイデアがよい。「伊豆の踊子」という選択もよい。行ってみるかという気にさせる。

「さよなら」と最後の打電したのちに自決をしたる乙女忘れじ　東京都　大室　英敏

残ってた真っ赤なマニキュアつけてみるどうせだあれも来ない猛暑日　栃木市　大森由紀子

ちあきなおみ小鼻の脇に黒子あり忘れざらめや歌声とともに　東京都　野上　卓

卓上にひとりの箸が置かれをり窓からの月それを見てゐる　久喜市　深沢ふさ江

補聴器を付けても台詞聴きとれず次第に世から遠のいていく　町田市　岩本　房子

火薬がつまったダイナマイトみたいな黒スイカをかかえて畑より今もち帰る　山口県　末広　正己

久びさに歌壇にわが名みつけたり心弾みて真夏日を行く　高石市　出水美智子

## 栗木　京子　選

同窓会圧縮袋に詰めこんだ誇張間違い初恋戻る　川崎市　長嶋　季伸

【評】同窓会での語らい。圧縮袋に詰めこんでいた記憶が解き放たれ、数々の思い違いが明らかになる。ただ、恥ずべき思い出だけでなく初恋のときめきも戻ったのがうれしい。

中三の受験勉強ご褒美は全身脱毛が定番らしい　熊本市　甲賀　亨子

【評】性別を問わず、脱毛を希望する若者が増えているようだ。おしゃれというより身だしなみなのか。全身となると費用も少なくない。「ご褒美」が様変わりしつつある。

学童の疎開の写真カラー化され頬っぺも赤くあどけなき子ら　上越市　太田　空賢

【評】技術が進んでモノクロ写真をカラー化できるようになった。色彩豊かな写真から、いっそう強く戦争の理不尽が伝わる。

生中継今年はテレビの真ん前で老いたる母と見る夏まつり　八王子市　松田　敦子

せがまれてお化け出てくる紙芝居子供等五人そつと消えたり　袋井市　荒野　学

少しずつ興味うすれる事の増え終の砦は本とのきずな　丸亀市　市橋　康子

鳴く耳と膝の震えを宥めつついつまで出来るか元気なふりが　所沢市　工藤英津子

見映え良くうつす鏡の前に立ち、そうと知りつつ試着の服買う　東京都　岩井千恵子

転院のタクシーの窓少し開けむさぼるやうに聞く蟬しぐれ　市原市　山下けいこ

「笑い声とってもいいね」と友は言う長い電話の最後の最後　日立市　高山　豊子

## 俳　万智　選

熱風が光の海を吹き荒れて帆を張るやうに日傘をひらく　千葉市　小金森まき

【評】今年の夏の暑さは、まさに上の句に表現されるような凄まじさだった。暑さの中へ出てゆくことは、熱風の波を乗り越えること。自分は、嵐の中の小舟なのだ。相棒である日傘を、その舟の帆としたところが面白い。

それぞれの傘を正しく使うまだ片手を空けることもできない　朝霞市　桐島　あお

【評】全体が「自分のことでまだ精一杯の二人」の比喩なのだろう。いつか空いたほうの手をつないだり、相合傘ができたりしますように。

今きっと笑ったしょげた野球観て会えない君と繋がる真夏　豊中市　今西　幹子

【評】君がどこかで応援しているはずのチーム。その様子を思い浮かべながら、そっと心で連帯する。第二句のリズムと具体性が、いい。

フルハウスの三人揃っているほうはなんなんだろう　制度がこわい　川崎市　からすまぁ

ヒヨドリの巣立ちて空の巣を見上ぐかなめの枝に陽の影の濃し　市原市　井原　茂明

振り返ることばかりあり言い訳の下手なわたしを見る鰯雲　東京都　音羽　凜

子がひとりほしいと言えば子をひとり産ませてくれる保険営業　八王子市　吉村おもち

後輩のほうがじょうずに着崩している制服も言葉づかいも　千葉市　芍　薬

ふるさとに帰れば知らぬ人ばかり昭和のビルは解体されて　奈良県　吉川　孝志

「こちら側のどこからでも切れます」は「また電話する」くらい怪しい　舞鶴市　西野　美之

## 黒瀬　珂瀾　選

鈴虫の鳴き響きたる草むらに月のひかりの絡まりゆきぬ　東京都　古沢　嘉之

【評】夏から秋へと季節が渡りゆく情緒が巧みに表現されました。月光が初秋の草々に絡まりゆく、という結句が、少しずつ冷気が増えてゆく宵の時を感じさせて卓抜です。

新しき恋も失恋すらもなく迎える九月は視界良好　生駒市　高橋　裕樹

【評】恋には巡り合わなくても、季節は常に巡り巡ってゆく。結句の言い切りの形にはどこか開き直った感じがあり、その一方で澄み渡った秋の空気を思わせてユニークです。

ノンアルのビールで管を巻くことがうまくなったと自分でおもう　鳥取県　表　いさお

【評】最近のノンアル飲料はずいぶん美味しくなって、本当にお酒を飲んだ気分になりますね。まったく自己催眠に弱い私たちです。

早朝の雲の下なる農道に稲はみのりの頭垂れをり　宮崎市　日高由美子

運命はもう止められぬ文庫本の『こころ』のどこへ栞を挿せど　川越市　太田　二郎

土佐の海ムーンロードのひとすじの白き波間に揺れたる理性　富岡市　宮前　咲恵

銀色の産毛愛しき桃ひとつ山の恵みの水にて洗ふ　青梅市　梅田　啓子

この道を私の道を来たんだな早寝早起き朝刊広ぐ　東京都　神通芙美代

温暖化炎暑化そして沸騰化終末時計の加速は続く　狭山市　若松　吉弘

独房に音のみ届く遠花火去りて静けし暑さしみ入る　仙台市　長岡　義宏

◇投稿規定◇　はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌（俳）壇、○○先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから　◇毎週月曜日に掲載　右の影絵はすすきのほ